

都市再生整備計画 事後評価シート
小川原湖周辺地区

平成29年3月

青森県東北町

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	青森県	市町村名	東北町	地区名	小川原湖周辺地区			面積	950ha			
交付期間	H23～H27	事後評価実施時期	H29.3月	交付対象事業費	1,245百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
	基幹事業		道路「間手場幹線、町道410号線、花切橋、町道408号線、町道409号線」、高次都市施設「乙供駅東西通路、上北町駅東西通路」									
	提案事業		地域創造支援事業「花切川上流部護岸整備、花切川河床浚渫」、事業活用調査「事業効果分析調査」									
			事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業		基幹事業	道路「町道408号線」	事業区間内で行われている他事業者による樋門整備が長期化しており、交付期間内で道路事業の着手が難しいため			影響なし				
			提案事業	地域創造支援事業「花切川河床浚渫」	管理者の異なる河口部との同時施工が必要だが、他管理者との工程調整が出来ず、交付期間内の着手が難しいため			影響なし				
新たに追加した事業		基幹事業										
		提案事業	地域創造支援事業「坂下町歩道撤去」	乙供駅自由通路の新設計画に伴い、既存歩道橋を撤去して景観形成を改善し、快適な都市空間の形成を図るため			影響なし					
交付期間の変更		当初変更	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	小川原湖公園地区来客数	人/年	710,000	H22	800,000	H27	546,364		あり なし	東日本大震災の影響により、観光客減少となった。	
	指標2	花切川の釣り人口	人/年	4,300	H22	5,500	H27	2,930	×	あり なし	小川原湖や花切川が近年の水質悪化により、釣り人口の減少となった。	
	指標3	町道間手場幹線の交通量	台/12H	125	H22	250	H27	200		あり なし	主要事業が平成29年1月に完了したことから、目標に達していないと考えられる。	平成29年7月
	指標4	駅自由通路の利用者満足度調査	%	44.5	H22	51.5	H27	未評価	×	あり なし	財源不足により整備できなかったことから、アンケート調査を行っていない。	
指標5									あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況	0											
5) 実施過程の評価			実施内容			実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2 - 2 地区の概要

小川原湖周辺地区(青森県東北町) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 小川原湖を軸とした観光振興と交通量環境改善による地域住民・観光客の賑わい拠点の創造 目標1: 交通条件の整備改善により、小川原湖への観光客誘導により一層の地域振興を図る。 目標2: 鉄道により分断された中心地の交通条件を改善し、中心市街地のアクセス条件、歩行者の快適性の向上を図る。 目標3: 花切川の整備により住民の環境美化意識の醸成、観光振興と次世代に引き継ぐ自然環境の保全・再生を図る。		小川原湖公園地区来客数	単位: 人 / 年	710,000 H22	800,000 H27	546,364 H28
		花切川の釣り人口	単位: 人 / 年	4,300 H22	5,500 H27	2,930 H28
		間手場幹線の交通量	単位: 台 / 12H	125 H22	250 H27	200 H28
		駅自由通路の利用者満足度調査	単位: %	44.5 H22	51.5 H27	未評価 H
			単位:	H	H	H

凡 例

- 基幹事
- 提案事
- 関連事

間手場幹線

町道410号線

花切橋

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・間手場幹線、町道410号線、花切橋の整備により小川原湖公園へのアクセスは向上され観光客の利便性が増したことで、東日本大震災の影響により減少した観光客の入込数を下げ止めたが観光客を増やすための方策(ソフト)が必要となる。 ・環境保全の改善・回復を図る事業を展開しているが効果が現れていない。これ以上の悪化を阻止することは当然ながら、改善するための方策が必要となる。 ・財政不足により駅自由通路の整備が未着手の状態であるが、商工業の振興並びに中心市街地の活性化には駅周辺整備が必要と考えられるが、町の活性化について住民と共に方策を考える必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・小川原湖公園を活用して観光客を呼込む方策(ソフト)を創造してPR活動を行う。 ・小川原湖へ流入する河川の管理自治体と連携して環境改善の方策を作り、環境先進のまちづくりを進める。 ・花切川に生息する川魚が繁殖し易い環境整備を行い、釣り客による賑わいを取り戻す。 ・中心市街地の活性化を図り地域の賑わいを創出するために駅自由通路だけではなく、駅周辺整備により町が発展する方策を地域住民と共にワークショップを繰返し創造する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標					
C. 目標値					
D. その他()					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	間手場幹線	230	L=1700m	272	L=1848m	工事完了に伴う精査による事業費増	影響なし		
	町道410号線	87	L=550m	115	L=550m	工事完了に伴う精査による事業費増	影響なし		
	花切橋	350	L=50m	565	L=60m	工事完了に伴う精査による事業費増	影響なし		
	町道408号線	50	L=1370m	0	L=0m	事業区間で行われている他事業者による樋門整備が長期化しており、交付期間内で道路事業の着手が難しいことから、事業削除	影響なし		
	町道409号線	50	L=1360m	81	L=1360m	工事完了(見込み)に伴う精査による事業費増	影響なし		
高次都市施設	乙供駅東西通路	150	歩行者用通路整備 L=120m	30	歩行者用通路整備 L=120m	関係機関との協議・調整に時間を要しているため、施設整備に係る部分の削除による事業費減	影響なし		
	上北町駅東西通路	150	歩行者用通路整備 L=300m	31	歩行者用通路整備 L=300m	関係機関との協議・調整に時間を要しているため、施設整備に係る部分の削除による事業費減	影響なし		

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし	
指標1	小川原湖公園地区来客数	人/年	商工観光課で実施している利用者数調査を活用。			710,000	H22	800,000	H27	モニタリング	-	-	モニタリング	-	
										事後評価	確定見込み	546,364	事後評価		
指標2	花切川の釣り人口	人/年	商工観光課で実施している利用者数調査を活用。			4,300	H22	5,500	H27	モニタリング	-	-	モニタリング	-	
										事後評価	確定見込み	2,930	事後評価	×	
指標3	町道間手場幹線の交通量	台/12h見込				125	H22	250	H27	モニタリング	-	-	モニタリング	-	
										事後評価	確定見込み	200	事後評価		
指標4	駅自由通路の利用者満足度調査	%				44.5	H22	51.5	H27	モニタリング	-	-	モニタリング	-	
										事後評価	確定見込み	未評価	事後評価	×	
指標5										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	東日本大震災の影響により観光客が減少したこと、及び、観光客数の計測方法の見直しにより、目標値を達成できなかったと考えられる。	主要事業の完成が平成28年度に繰越されたことにより、効果が現れるのは平成29年度からと考えられる。
指標2	小川原湖並びに花切川の水質について近年悪化傾向であること、釣り人口の減少などから目標を達成出来なかったと考えられる。	花切川上流の近隣市町村等と水質改善(環境対策)の取り組みを行わなければ、魚の生息地としての魅力が損なわれ釣り客が減少すると考えられる。
指標3	町道間手場幹線と町道410号線の整備により小川原湖公園へのアクセス向上が期待されるが、町道410号線の整備が平成29年1月に完了したことから、交通量が目標に達していないと考えられる。	町道間手場幹線と町道410号線が完了したことに伴い、平成29年度の測定にて目標を達成すると思われる。
指標4	駅自由通路について5ヶ年計画内に整備出来なかったことから目標を達成出来なかった。	
指標5		

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

2 目標達成度の記入方法

：評価値が目標値を上回った場合

：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ¹ 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

¹ 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名・組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 (まちづくり交付金事後評価検討チーム)	関係各課職員 (建設課、下水道課、商工観光課、企画課)	平成29年 2月10日	建設課

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標		指標		指標		指標	
指標名									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路「間手場幹線」								
	道路「町道410号線」								
	道路「花切橋」								
	道路「町道409号線」								
	高次都市施設「乙供駅東西通路」								
	高次都市施設「上北町駅東西通路」								
提案事業	地域創造支援事業「花切川上流部護岸整備」								
	地域創造支援事業「坂下町歩道橋撤去」								
	事業活用調査「事業効果分析調査」								
関連事業	道路改良舗装事業「町道437号線」								
	公共下水道事業「小川原湖周辺地区内」								

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名		小川原湖公園地区来客数			花切川の釣り人口			町道間手場幹線の交通量			駅自由通路の利用者満足調査		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路「間手場幹線」		東日本大震災の影響により観光客が減少したことが最大の原因であるが、事業の完了が平成28年度だったことから、事業効果は平成29年度以降に反映されると考えられる。		-	小川原湖及び花切川の水質について近年悪化傾向であり、魚の生息地として回復出来ていないことや、花切川上流部護岸整備による改善効果が発揮されていないと考えられる。		-	町道間手場幹線の事業完了により交通量は増加しているが、小川原湖公園へのアクセス向上のための町道410号線が平成29年1月に完了したことから、目標まで届かなかった。		-	財源不足により駅自由通路を整備できなかったことから、アンケート調査を行っていない。	
	道路「町道410号線」				-			-			-		
	道路「花切橋」				-			-			-		
	道路「町道409号線」				-			-			-		
	高次都市施設「乙供駅東西通路」	-			-			-			-		
	高次都市施設「上北町駅東西通路」	-			-			-			-		
提案事業	地域創造支援事業「花切川上流部護岸整備」	-			-			-			-		
	地域創造支援事業「坂下町歩道橋撤去」	-			-			-					
	事業活用調査「事業効果分析調査」	-			-			-					
関連事業	道路改良舗装事業「町道437号線」				-			-			-		
	公共下水道事業「小川原湖周辺地区内」	-			-			-					

目標未達成への影響度
 x x : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 x : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 : 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 - : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

要因の分類
 分類 : 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類 : 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類 : 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類 : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	道路整備により小川原湖公園へのアクセス向上したことを周知したり、小川原湖という観光資源のPR活動を展開して観光客を呼び込む。	水質改善に取り組み、ヘラブナが繁殖する川としての魅力を取り戻し、釣り客を呼び込めるように務める。	町道間手場幹線と町道410号線による小川原湖公園への利便性をPRすることで交通量を増加させる。	駅周辺の再開発は多大な財源の確保が必須であり、ワークショップを開き住民と連携して今後のまちづくり計画の策定に取組む必要がある。
------------------	--	--	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織 (まちづくり交付金事後評価検討チーム)	各課関係職員 (企画課、財政課、建設課、下水道課、商工 観光課)	平成29年 2月10日	建設課

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
駅周辺の街路及び広場等の 整備による住民や観光客のア クセス性の向上	・なし	・駅周辺の整備に必要となる多大な財源	・なし
小川原湖へのアクセス道路の 整備による観光客の拡大及び 水産業の活性化	・間手場幹線、町道410号線、花切橋の完了により小 川原湖公園へのアクセス道路が整備されたことにより、 観光客の利便性が向上した。	・なし	
花切川の整備による観光振興 及び小川原湖の自然環境の 保全・再生	・花切川の整備として町道409号線の一部が完了した ことにより、観光振興及び環境保全・再生が向上した。	・町道409号線が完了していないことによる観光振興への影 響。 ・花切川の河床浚渫を計画から削除したことによる環境保全へ の影響。	
駅自由通路の整備による東西 のアクセスの向上及び東西住 民の交流の拡大	・なし	・駅周辺の整備に必要となる多大な財源	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	小川原湖公園地区観光客	・小川原湖公園へのアクセス向上の基盤整備(ハード)はほぼ達成されたので、今後は小川原湖を資源とした観光施策(ソフト)の向上。	・小川原湖の魅力をPRするイベントの開催。等
	小川原湖及び花切川的环境保全・再生	・環境保全に努め、川魚が繁殖し易い環境を整えること。 ・汚水による水質悪化の改善を図ること。	・下水道の整備 ・水質改善活動

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	駅周辺の街路・自由通路及び広場等の整備による東西住民のアクセス向上	・地域住民と連携し駅周辺整備についてワークショップを重ね整備計画を策定すると共に、財源を確保するための予算運営計画の見直しを行う。	・駅周辺整備についてのワークショップ ・駅周辺広場等の整備 ・駅自由通路(東西)の整備
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・小川原湖の他に温泉地としての資源を活用したら観光客を呼び込めるまちづくり方策となると思われる。
- ・駅周辺が整備されたとしても、そこへ通じる道が隘路では利用者のアクセスが向上したと言えるのが疑問である。

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-1、2-2に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-1、2-2から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が「×」の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	小川原湖周辺地区来客数	人/年	710,000	H22	800,000	H27	確定	546,364		あり			
							見込み			なし			
指標2	花切川の釣り人口	人/年	4,300	H22	5,500	H27	確定	2,930	×	あり			
							見込み			なし			
指標3	町道間手場幹線の交通量	台/12H	125	H22	250	H27	確定	200		あり	平成29年7月	交通量調査	
							見込み			なし			
指標4	駅自由通路の利用者満足度調査	%	44.5	H22	51.5	H27	確定	未評価		あり			
							見込み			なし			
指標5				H		H	確定			あり			
							見込み			なし			
その他の数値指標1				H			確定						
				H			見込み						
その他の数値指標2				H			確定						
				H			見込み						
その他の数値指標3				H			確定						
				H			見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・計画の策定当初から評価委員会を立ち上げ定期的に評価を行い、計測結果により計画変更等に対応することが望ましい。
	うまくいかなかった点	・目標値を設定する事前評価時点から第三者によるチェックがなされていなかったこと。また、モニタリング等による中間評価を行い目標達成の検証がなされなかったこと。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・次期計画を作成する時は、事後評価の実施を考慮して指標と目標数値並びに計測方法が、事業との整合性と一致する設定が必要である。
	うまくいかなかった点	・小川原湖公園地区観光客数の増加を目標としたが、基幹事業が公園へのアクセス向上であり、観光客数と直結するかどうかの検証がなかったこと。また、従前値に花火大会の来場者数ではなく観覧したと思われる予測数が計上されており、計測数値として適切ではなかったと考えられる。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		・商工観光課の観光客調べによる数値を指標としたことにより、住民参加型のまちづくりとなっていない。 住民が望む指標等を取り入れるためにはワークショップを行うこと。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		・モニタリングを地域住民と共に行い、指標の検証を毎年度行うことがPDCAサイクルの潤滑油となる。
	うまくいかなかった点	・モニタリングを実施しなかったことで指標の検証機能が働いていなかった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

財源の確保状況にもよるが、乙供駅及び北上町駅の東西自由通路について、都市再生整備計画事業の活用を予定している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに記載	平成29年2月27日～ 平成29年3月13日	平成29年2月27日～ 平成29年3月13日	担当課への電子メール、FAX、郵送、持参	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	-	-	-		

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	江刺家 力 元東北町収入役 富岡 弘治 元上北商工会長	平成29年3月16日	建設課 (まちづくり交付金担当課)	まちづくり交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	町屋 美佐夫 町内会長(元駅周辺整備計画検討委員)				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・小川原湖公園地区来客数、花切川の釣り人口については東日本大震災の影響により数値目標は達成出来なかったが、震災後に下降線を描かず現状維持で推移しており、事業完了から数年後に効果が現れるという意見もあったが、現段階での評価は適正であると理解を得た。
	実施過程の評価	・モニタリングやワークショップを毎年度行うことが大切という意見があった。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理は、適正であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は町民に対して、適正に公表されたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であることが認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策は、適正に作成されたことが認められた。
	フォローアップ	・フォローアップ計画は妥当であることが認められた。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--